

2019年（平成31年） 4月19日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/4~4/10のNYMEX・WTIは、62.10~64.61ドルの範囲で推移した。

4月11日は、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)の石油市場報告が2019年の需要見通しは据え置いたものの世界経済の減速による下振れリスクの可能性を指摘、また、関係筋の話として、イラン・ベネズエラの減産が続くようであれば、OPECは増産に転じる可能性があるとの報道があり、反落した。5月限終値は前日比1.03ドル安の63.58ドル。

週末12日は、リビア国営石油会社のサナラ会長の内戦激化により同社の原油生産が全面停止する可能性がある旨の発言、前日のIEA月報でベネズエラの3月産油量が激減したとの報告で、反発した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は833基(前週比2基増)と2週連続の増加となった。5月限終値は前日比0.31ドル高の63.89ドル。

週明け15日は、シリアノフ露財務相が米国とのシェア競争のためロシアとOPECが増産を決める可能性があり、その場合40ドル程度までの油価低下もありうると発言した旨のタス通信報道で反落した。5月限終値は前週末比0.49ドル安の63.40ドル。

16日は、リビアの内戦激化、イラン・ベネズエラの経済制裁による一層の減産懸念から反発した。ただ、最近のロシアの協調減産延長への消極姿勢、翌日発表予定の米国在庫週報の前週比積み増し観測が上値を抑えた。5月限終値は前日比0.65ドル高の64.05ドル。

17日は、この日発表のEIA在庫週報で、米国原油在庫が

前週比140万バレル減、ガソリン在庫が同120万バレル減と取り崩されたものの市場予想を大きく下回ったことから、反落した。EIA原油在庫は4週ぶりの取り崩し。5月限終値は前日比0.29ドル安の63.76ドル。

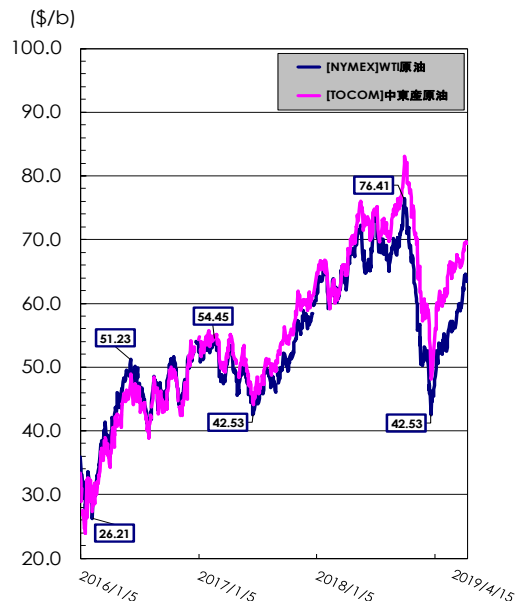
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は4月4日~10日の間68.90~70.40ドルの範囲で推移した。4月11日70.40ドル、12日70.10ドル、15日70.30ドル、16日70.00ドル、17日71.20ドルで推移した。

為替は4月4日~10日の間111.20~111.81円の範囲で推移した。4月11日111.11円、12日111.80円、15日112.01円、16日112.00円、17日112.14円で推移した。

財務省が17日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格は、46,869円/klで、前旬比824円高、ドル建てでは66.83ドルで前旬比1.04ドル高。為替レートは1ドル/111.48円だった。また、同日発表した貿易統計(速報・月間)によると、3月の原油輸入平均CIF価格は、45,818円/klで、前月比2,934円高、ドル建てでは65.52ドルで前月比3.33ドル高。為替レートは1ドル/111.17円だった。

そのような中で、4月15日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.0円の値上がり、軽油も同0.9円の値上がり、灯油も同10円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに9週連続の値上がりだった。この週(4月第3週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の引き上げとなった。

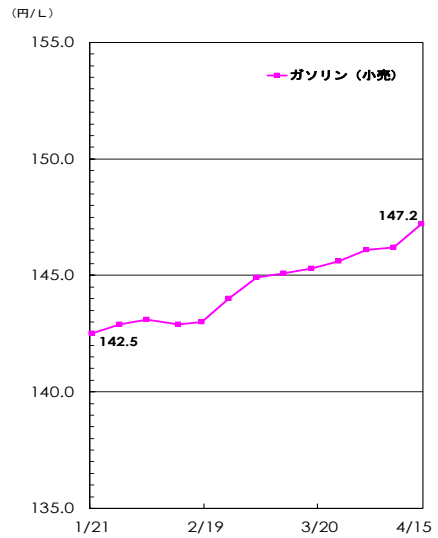
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/7 ~ 4/13	3,476 ▼ -33	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.8 ▼ -0.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/13	12,905 ▲ 813	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/15	69.42 ▼ -0.05	▲ 1.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/15	63.40 ▼ -1.00	▼ -2.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	66.83 ▲ 1.04	▲ 0.04
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,869 ▲ 824	▲ 2,105
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.48 ▼ -0.21	▼ -4.92
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/15	113.01 ▼ -0.57	▼ -4.50



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/7 ~ 4/13	939 ▲12	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	929 ▼-47	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	4/13	1,581 ▲11	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/9 ~ 4/15	64.1 ▲1.4	▲ 4.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/9 ~ 4/15	61.6 ▲1.5	▲ 1.7
		(TOCOM/中部)	4/15	64.0 ▲1.5	▲ 4.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/15	147.2 ▲1.0	▲ 3.9	

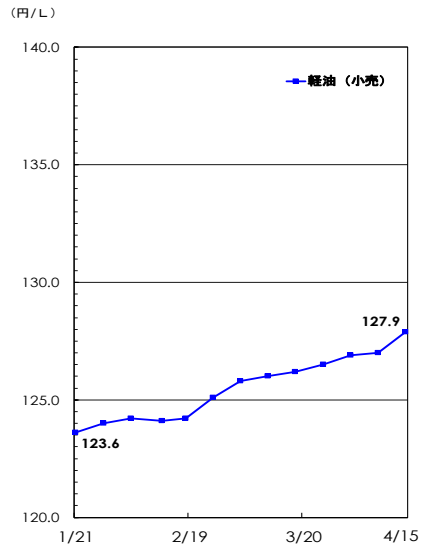
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

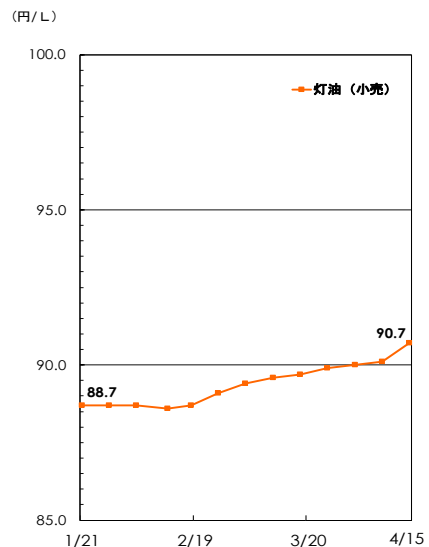
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/7 ~ 4/13	732 ▼-45	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	647 ▲19	▲ -	
	輸出	"	142 ▲56	▲ -	
	在庫	4/13	1,340 ▼-58	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/9 ~ 4/15	66.3 ▲1.2	▲ 5.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/9 ~ 4/15	66.7 ▲0.6	▲ 5.7
		(TOCOM/中部)	4/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/15	127.9 ▲0.9	▲ 5.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/7 ~ 4/13	206 ▼-21	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	267 ▼-109	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/13	1,121 ▼-61	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/9 ~ 4/15	66.3 ▲1.7	▲ 4.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/9 ~ 4/15	65.5 ▲1.5	▲ 4.8
		(TOCOM/中部)	4/15	64.2 ➡ 0.0	▲ 3.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/15	90.7 ▲0.6	▲ 3.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月17日のNYMEX市場WTI原油は、前日夕刻発表の米国石油協会(API)の原油在庫統計が市場予想(前週比170万バレル増)に反する取り崩しだったものの、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が同140万バレル減とAPI発表を大きく下回り、ガソリン在庫も同120万バレル減と市場予想(同210万バレル減)を下回ったこと、さらに、OPEC等の協調減産の下期延長に異論が出ていることから、反落した。EIAの原油在庫は4週ぶりの取り崩しになった。5月限終値は前日比0.29ドル安の63.76ドル。6月限の終値は前日比0.32ドル安の63.87ドルだった。

た。

EIAによると、4月15日時点のガソリンの小売価格は、前週比8.3セント値上がりの1ガロン2.828ドル(84.3円/ℓ)、ディーゼルは同2.5セント値上がりの3.118ドル(93.0円/ℓ)となった。ガソリンは10週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年4月7日～4月13日に休止したトッパー能力は24.8万バレル/日で、前週に対して0.4万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は347.6万klと、前週に比べ3.3万kl減少。前年に対しては17.4万klの減少。トッパー稼働率は88.8%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては4.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.3%増、ジェット/3.8%増、灯油/9.4%減、軽油/5.8%減、A重油/9.2%増、C重油/5.7%減。今週のC重油の輸入は0.7万kl(前週比0.7万kl増)。軽油の輸出は14.2万kl(前週比5.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は92.9万 kl(対前週4.8%減)と前週比で2週振りで減少となり、15週連続で100万klを下回った。ジェット7.6万kl(対前週5.5%減)、灯油26.7万kl(対前週29.1%減)、

軽油64.7万kl(対前週3.1%増)、A重油20.0万kl(対前週12.8%減)、C重油18.6万kl(対前週95.4%増)。

(単位:千kl)

	今週 (4/7 ~ 4/13)	前週 (3/31 ~ 4/6)	前週比	
ガソリン	929	976	▼ -47	(-5%)
ジェット燃料	76	81	▼ -5	(-6%)
灯油	267	376	▼ -109	(-29%)
軽油	647	628	▲ 19	(3%)
A重油	200	229	▼ -29	(-13%)
C重油	186	95	▲ 91	(96%)
合計	2,305	2,385	▼ -80	(-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月13日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは158.1万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては16.2万kl少ない。

灯油は112.1万kl、前週差6.1万kl減。前年に対しては28.9万kl少ない。

軽油は134.0万kl、前週差5.8万kl減。前年に対しては2.5万kl少ない。

A重油は75.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては3.9万kl多い。

C重油は191.6万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては9.6万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (4/13)	前週 (4/6)	前週比	
ガソリン	1,581	1,570	▲ 11	(1%)
ジェット燃料	971	876	▲ 95	(11%)
灯油	1,121	1,182	▼ -61	(-5%)
軽油	1,340	1,398	▼ -58	(-4%)
A重油	752	743	▲ 9	(1%)
C重油	1,916	1,947	▼ -31	(-2%)
合計	7,681	7,716	▼ -35	(-0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月9日から15日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円高であったが、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、4月9日～15日の間、ガソリン116～118円台で大きく値上がり後ほぼ横ばい、軽油64～66円台で大きく値上がり後ほぼ横ばい、灯油64～66円台で大きく値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン117～119円台

で大きく値上がり後ほぼ横ばい、軽油67円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油65～66円台で値上がり後値を戻して推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン114～116円台で大きく値上がり、軽油66～67円台で値上がり、灯油65円台で値上がり後値を戻して推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社1.0円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

4月第4週(4/18～4/24)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4/9～4/15千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.9円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.5円の値上がり、灯油は1.5円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。

4月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の引き上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (4/9 ~ 4/15)	前週 (4/2 ~ 4/8)	前週比
レギュラー	64.1	62.7	▲ 1.4
灯油	66.3	64.6	▲ 1.7
軽油	66.3	65.1	▲ 1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値[平均]	今週 (4/9 ~ 4/15)	前週 (4/2 ~ 4/8)	前週比
レギュラー	61.6	60.1	▲ 1.5
灯油	65.5	64.0	▲ 1.5
軽油	66.7	66.1	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/9～4/15実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 1.5
灯油	▲ 1.7	▲ 1.5	▲ 1.6
軽油	▲ 1.2	▲ 0.6	▲ 0.9
A重油	▲ 1.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円高の147.2円、軽油も同0.9円高の127.9円、灯油は18%ベースで同10円高の1,632円(1%ベースでは同0.6円高の90.7円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに9週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが42都道府県、横ばいが4県、値下がりが1県だった。全国最安値は徳島県の140.5円(前週比2.2円高)、次が埼玉県(同0.6円高)、最高値は長崎県の157.7円(同横ばい)であった。値上がりしたのは2.8円高の岡山県(145.2円)、横ばいは長崎県など4県、最も値下がりは0.1円安の香川県(145.6)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の引き上げとなった。

今週は、原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高であったが、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の引き上げとなった。次週(4月22日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/15)	前週 (4/8)	前週比	直近高値
レギュラー	147.2	146.2	▲ 1.0	08/8/4 185.1
灯油	90.7	90.1	▲ 0.6	08/8/11 132.1
軽油	127.9	127.0	▲ 0.9	08/8/4 167.4

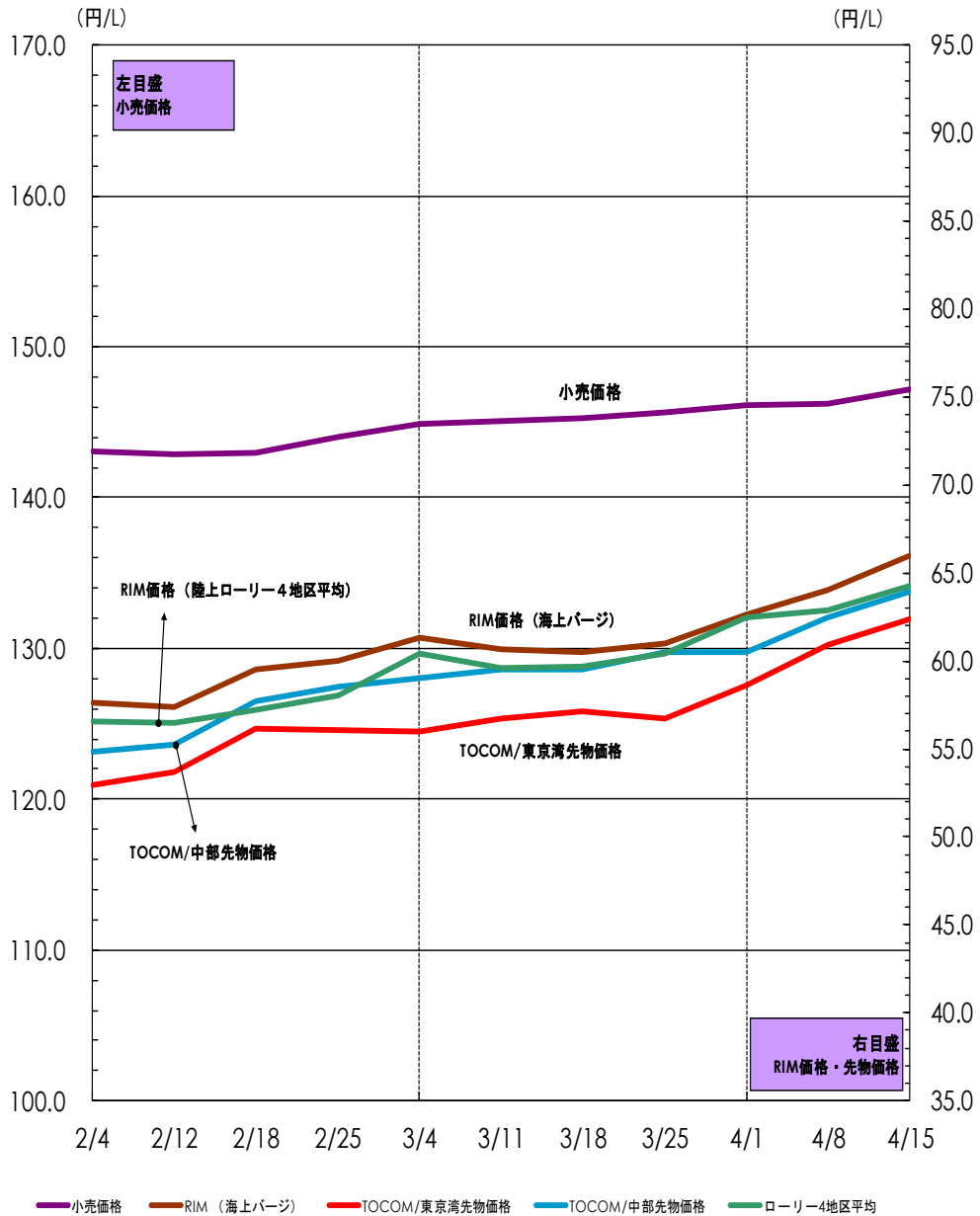
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/2/4 ~ 2019/4/15)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第4号)の公表は、4/26(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。